【男子500㍍2回目】1回目に続いてトップタイムをマークして優勝した小原唯志

小原唯 男子500 4週連続V

浅間選抜スケート　1500は土井（男子）小原悠（女子）制す

（4日・7位以下関係分）

【男子】◇1500㍍（カルテット）
日本記録　今井　裕介（メッツ）　1分45秒49
国内最高　杉森　輝大（吉羽木材）　1分48秒88
大会記録　根本　茂一（三協精機）　1分51秒71
リンク記録　根本　茂一（三協精機）　1分51秒71
①土井　槙悟（開西病院）　1分52秒46
②渡部　知也（池田高）　1・53・80
②小林　申太（鶴雅グループ―日体大、白樺学園高出）　1・53・80
④阿部　大輝（クレアシオン―日大、白樺学園高出）　1・54・67
⑤由井　拓実（早大）　1・55・26
⑥今野　陽太（グランディール水戸―専大、白樺学園高出）　1・55・35
⑦新田昌樹（とかちチームＡＡ）1・55・61⑬山田達弥（東洋大―釧路商高、浦幌中出）1・56・24⑭蓑田翔（専大―白樺学園高出）1・56・25⑮坂井洸太（専大―白樺学園高出）1・56・32⑰小林友剛（明大―白樺学園高出）1・57・02⑳山田史弥（日大―釧路商高、浦幌中出）1・57・09㉘小野泰幸（専大―白樺学園高出）1・58・26㉚佐山敏幸（専大―池田高出）1・58・41㉜宮村健斗（日大―池田高出）1・58・69㉞長内慎太郎（日体大―白樺学園高出）1・59・46㊳近藤邦彦（山梨学院大―本別高出）1・59・46㊳金曽将哉（日体大―白樺学園高出）1・59・89㊵松本和哉（日大―本別高出）2・1・63
◇1万㍍（カルテット）
日本記録　平子　裕基（開西病院）　13分19秒64
国内最高　白幡　圭史（コクド）　13分38秒14
大会記録　白幡　圭史（コクド）　13分48秒38
リンク記録　白幡　圭史（コクド）　13分48秒38
①黒岩　信允（明大）　14分8秒31
②森　哲平（アインファーマシーズ）　14・9・87
③松岡　源季（ビジネスホテルまつおか）　14・30・00
④鷺田　衡俊（山梨学院大）　14・38・58
【女子】◇1500㍍（カルテット）
日本記録　田畑　真紀（ダイチ）　1分54秒56
国内最高　田畑　真紀（ダイチ）　1分59秒30
大会記録　田畑　真紀（富士急）　2分2秒80
リンク記録　田畑　真紀（富士急）　2分2秒80
①小原　悠里（山昭―白樺学園高出）　2分5秒85
②菊池　彩花（富士急）　2・6・35
③川崎みなみ（群馬県体育協会―日体大、白樺学園高出）　2・7・02
④松田　有幾（十六銀行―白樺学園高出）　2・7・04
⑤歸山　麻衣（山梨学院大）　2・7・10
⑥藤村　祥子（日体大―白樺学園高出）　2・7・34
⑨藤村あゆみ（日体大―白樺学園高出）2・8・49⑪土田愛（山梨学院大―駒大苫小牧高、屈足中出）2・9・97⑮白木恵梨（山梨学院大―池田高出）2・11・68
（リンクコンディション＝天候曇り、無風、気温4.2度、氷温マイナス0.6度、湿度70.1％、4日午後4時30分現在）

連戦の疲れ　気合で連勝　小原唯

【長野】スピードスケートの第40回松本浅間選抜競技会（日本スケート連盟主催）は5日、松本市浅間温泉国際スケートセンターで第2日の競技を行い、午前の男子500㍍は小原唯志（日本電産サンキョー―明大、白樺学園高出）が1回目に35秒84、2回目も35秒86とトップタイムをそろえ、2回合計71秒70で帯広の森、苫小牧ハイランド、真駒内選抜に続き4週連続の優勝を飾った。女子同は辻麻希（岸本医科学研究所―白樺学園高出）が2回合計80秒11（1回目40秒08、2回目40秒03）で3連覇を果たした。初日の4日は、男子1500㍍で土井槙悟（開西病院）が1分52秒46をマークし真駒内選抜に続き2大会連続で優勝。渡部知也（池田高3年）と小林申太（鶴雅グループ―日体大、白樺学園高出）は1分53秒80の同タイムでともに2位だった。女子同は小原悠里（山昭―白樺学園高出）が2分5秒85で優勝、川崎みなみ（群馬県体育協会―日体大、白樺学園高出）は2分7秒02で3位だった。（高橋宏幸、塩原真）

○…男子500㍍は小原唯志が唯一35秒台をそろえて貫録の勝利。4週にわたりレースを続けるのは初めてで、「連戦の最後なのでまったく『す』とさすがに疲れが出た様動かなかった。きつかったで」子。タイムにも納得いかない

五輪選考会へいい流れ　土井

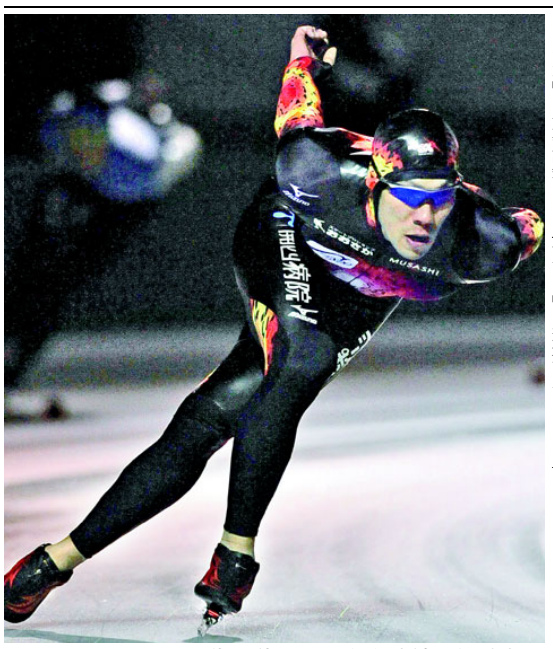
男子1500㍍は土井槙悟が唯一52秒台をマークし、真駒内選抜に続き連勝を飾った。内容には「最後にだれすぎて、もったいないレースだった」と少し不満が残ったが、「2戦しっかり勝てて、今月末の五輪選考会に向けていい流れを作れた」と勝ち切ったことには納得していた。

松本市がリンク閉鎖の方針を決めているため、今大会が最後の浅間選抜となる見込み。「状況から見て今日は行けるかな」と大会記録・リンク記録を狙ったが、終盤失速して届かなかった。「ラップが落ちすぎた。（浅間選抜が）最後なので最低でもリンクレコードとは思ったが、ちょっと足りなかった。それが悔しいですね」と土井。

ワールドカップ（W杯）前半戦行きは逃したものの、今季は好調をキープしている。集中しすぎて硬くなったり、頭が真っ白になってしまっていたこれまでとは違い、「気持ちの面でも落ち着いて臨めている」と精神面をうまくコントロールできている。

今月末の五輪代表選考会は「50秒を切る争いになる」とにらみ、「心の準備というか、そこで戦えると頭に置いてレースをしたい」と冷静に大一番を見据える。

土井は「開西病院の）チームとしてもいい流れで来ているので、僕だけに限らずなるべく多くの選手がオリンピックに行けたらいい。みんなで勝負したい」と力を込めていた。



【男子1500㍍】１分52秒46で２大会連続の優勝を飾った土井槙悟

レースで足動いた　男子1500㍍2位の渡部知也の話

公式練習のときは足が動いてなかったが、レースは足が動いてスピードも出たので良かった。55秒前後が出せればいいと思っていたが、意外とラップが落ちなくて屋外自己ベストなので良かった。5000㍍も自分の力をフルに出したい。

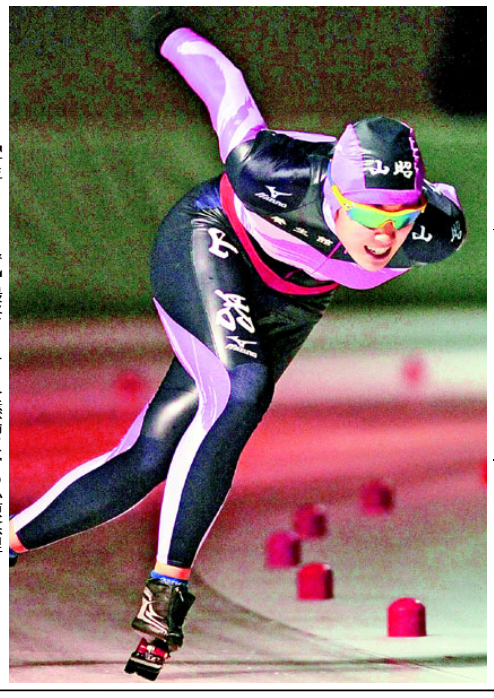
無難に滑った　男子1500㍍2位の小林申太の話

帯広の森競技会後にインフルエンザにかかってしまい、立ち直ってきたところなので無難に滑ったというところ。思ったより体が動いていないので、出来としては50点もいかない。それでも2位になれたのはそれなりの自信になるし、次につながる。

スケーティング徐々に仕上がる　小原悠

○…女子1500㍍を制した小原悠里だが、「満足のいく内容ではなかった。いい部分もあったが反省する部分もあり、糧としたい」と淡々。朝のアップ段階では「久しぶりにいい感触があった」だけにいま一つ伸び悩んだタイムに悔いが残った。

今季はスケーティングの変化を図った。10月の距離別は低調に終わったものの、その後の調整で「（目指すスケーティングに）少しずつ近づいてきた」と徐々に仕上がってきている感触はある。今月末の五輪選考会を見据え、小原は「1000㍍はスピードを求めていきたい。しばらく大会が空くので、大事にレースをしたい」と気持ちを切り替えていた。



【女子1500㍍】最終コーナーを懸命に滑る小原悠里

【男子1500㍍】表彰台で笑顔をみせる土井槙悟、渡部知也、小林申太（右から）

かちまいスポーツ

長野から十勝に拠点を移す

マウンテンバイク（MTB）・クロスカントリー競技のアジアチャンピオン、山本幸平選手（24）＝チーム・ブリヂストンアンカー＝国際アウトドア専門学院、帯農高出＝が4日、十勝毎日新聞社を訪れた。全日本選手権連覇、アジア選手権制覇という充実した今季を振り返りながら「3年後のロンドン五輪出場へ向け、来年は世界で20位以内をものにする」と意欲を語った。

アジア大会初優勝飾る

北京五輪MTB日本代表の山本選手は今年前半、フランスを拠点にヨーロッパを主戦場に活動。7月には長野県で行われた第22回全日本選手権大会シニアエリートクラスで圧勝して2連覇を達成。8月のジャパンシリーズ白馬大会でも優勝した。9月にオーストラリアで行われた世界選手権は46位に終わったが、気持ちを立て直して臨んだ11月のアジア選手権（マレーシア）では見事に初優勝を飾った。

「世界選手権は目標の20位以内に届かず、情けなかったが、逆にやるべきことも見え、やれるんだという気持ちにもなれた。アジアでは一番になったが、世界との差はある。初心を忘れずに新鮮な気持ちで新たなスタートを切りたい」と気持ちを切り替える。

長野から十勝に拠点を移す

16日から来年2月初めまでタイでトレーニングを積む前の休養として1日に幕別町の実家に戻った。山本選手はこれまで長野県松本市に居を構えていたが、住民票を幕別町に戻し、十勝から世界、全国に出向いていくことを決意。「何よりも十勝が大好き。それに海外の選手たちは両親や周囲の人との暮らしを大切にしている。自分も見習いたい」とすでに引っ越しを終えた。十勝がヨーロッパに似た練習環境で、師事するフランス人コーチからのアドバイスもインターネットのテレビ電話やメールで対応できることで、トレーニングに支障はない。地元の長谷川産業のスポンサードも心強く感じている。

自転車普及の活動も取り組む

来年は、タイでの合宿後の2月中旬から7月までヨーロッパを転戦し、7月に帰国して日本選手権に出場、再び渡欧し、カナダでの世界選手権を経てアジア選手権、アジア大会を目指す。

また、「ヨーロッパの人たちの暮らしに自転車は欠かせない。十勝にも広がってほしいし、その手伝いをしたい」と普及活動へも取り組むつもり。山本幸平後援会の鎌田利道会長は「ロンドン五輪に向け、全力投球してもらいたい」と期待しながら「周囲への気配り、礼節など人間性も急成長している」と充実感に満ちている山本選手の成長ぶりに目を細めている。（大野篤志）

「十勝をベースにし、来年は世界20位以内を実現する」と意欲を語る山本幸平選手（金野和彦撮影）

記録の速報は▶kachimai.mobi
写真がほしい▶TEL0120-25-9410

日ハムのパ制覇に貢献
林、坂元トークショー
9日からチケット販売
グッズなど当たる抽選会も

今季パ・リーグを制した北海道日本ハムファイターズで活躍した林昌範、坂元弥太郎の両投手を迎えたトークショー（HS―WORLD年中野球、十勝毎日新聞社、FM―JAGA主催）が27日午後7時から、市民文化ホールで行われる。9日から勝毎サロン（藤丸7階）、年中野球（音更町大通5丁目2）でチケット販売を開始する。

林投手は今季巨人からファイターズに移籍。長身から繰り出す140㌔後半の直球を武器に左の中継ぎとしてリーグ優勝に貢献した。2008年に自己最多の6勝を挙げた坂元投手は交換トレードにより横浜ベイスターズへの移籍が決まっている。

トークショーではリーグ優勝までの道のりなどのエピソードを語る。終了後は野球用品やファイターズグッズなどが当たる抽選会を開催する。チケットは大人2000円、中学生以下1000円（全席自由）。午後6時半開場。同日は両選手が講師を務めて小・中学生を対象とした野球教室も開催予定。

問い合わせはHS―WORLD年中野球（32・4828）へ。